

はじめに

平素より地域の感染症対策に御協力いただきありがとうございます。

医療機関向け情報には **医** を、一般施設向け情報には **全** をつけています。

原則毎月第2・4木曜日に配信し、新たな通知や感染症情報等がある場合、随時臨時号を配信いたします。

全数報告：第33週～34週(8/10～8/23) 定点報告：第30週～34週(7/20～8/23)

全数報告疾患情報

医

市川保健所管内で報告のあった疾患のみ掲載しています

※定点報告疾患については、第30週～第34週のグラフを別添しております

2類感染症	33～34週	累計(年)
結核	2	67

4類感染症	33～34週	累計(年)
E型肝炎	1	1

5類感染症	33～34週	累計(年)
後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)	1	9
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	4

発生動向トピックス

TOPICS 1

災害に備えて感染症対策を確認しましょう！

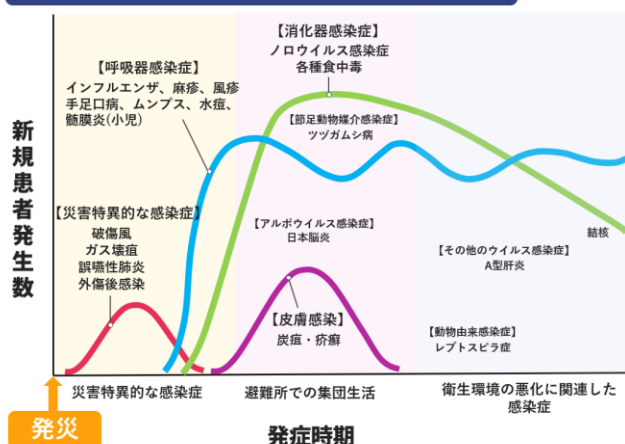
医 全

このたびの令和8年8月千葉豪雨により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

8月30日から9月5日は「**防災週間**」です。近年、地震や台風、豪雨による災害が各地で発生しており、災害への備えの重要性が高まっています。災害発生時には、住居やライフラインへの被害だけでなく、衛生環境の悪化によって感染症が発生・拡大するリスクが高まります。

台風や豪雨による浸水・洪水の後には、汚染された水や泥に接触する機会が増えるため、**レプトスピラ症**や**破傷風**、**レジオネラ症**などの感染症に注意が必要です。特に、浸水した家屋の片付けや清掃作業を行う際は、手袋や長靴、マスクを着用し、けがをした場合は速やかに傷口を洗浄しましょう。

国内で災害後に問題となる感染症と発症時期



出典：日本環境感染学会「大規模自然災害の被災地における感染制御マネジメントの手引き」S20図2をもとに作成

また、避難所では多くの人が共同生活を送ることから**感染性胃腸炎**、**インフルエンザ**、**新型コロナウイルス感染症**等の感染症が流行することがあります。断水などにより手洗いが十分にできない状況では、接触感染や飛沫感染のリスクがさらに高まります。避難所等で生活されている方やボランティアをはじめとする被災地域の避難所等に出入りされる方は、手指消毒や咳エチケット等の感染症対策に努めましょう。災害はいつ発生するかわかりません。**防災用品の点検**とあわせて、**感染症対策に必要な物品**や対応方法についても確認し、日頃から備えておきましょう。

地震や津波、洪水等を伴う災害時に リスクが高まる感染症の例

レジオネラ症

汚染された水や
しぶきを吸い込んだり
することで感染



破傷風

創部
感染

ツツガ
ムシ病

レプト
スピラ症

傷口から病原体が入り
感染



虫に刺され
たり保菌動物の
糞から感染



清掃作業をされる方へ

清掃作業時に 注意してください

①傷口からの感染



- 予防策・丈夫な手袋や底の厚い靴などを着用
・長袖など肌の見えない服装を着用

ケガをした場合

傷口を流水で洗浄し、消毒しましょう。
特に深い傷や汚れた傷は破傷風になる場合があるため、
医師に相談をしましょう。

※ 破傷風は傷口に破傷風菌が入り込んでおこる感染症で、医療機関で適切な治療を行わないと死に至ることもある病気です。

②土ほりへの対応

土ほりが目に入って結膜炎になったり、口から入ってのどや肺に炎症を起こすこともありますので、目や口を保護することが重要です。

- 予防策・ゴーグル・マスクを着用
・作業後は手洗い

目に異物が入った場合

目を洗浄しても、充血が起きている場合などは医師に相談をしましょう。



破傷風

症状

- 口が開きにくくなる(開口障害)、顎がつかれる、嚥下困難といった症状から始まる
- 進行すると全身の筋肉が硬直し、痙攣や呼吸困難を引き起こす
- 重症化すると息ができなくなり亡くなることもある(致死率10~20%)

感染
経路

- 洪水後の復旧作業中に泥や土壌に触れる際、傷口から破傷風菌が侵入し感染する

レプト
スピラ症

症状

- 軽症型では発熱や筋肉痛、倦怠感などの風邪様症状のみで軽快する
- 重症化すると黄疸、腎臓や肝臓の機能障害、呼吸困難を引き起こすことがある

感染
経路

- 豪雨や洪水後にネズミなどの尿から排出された病原性レプトスピラという物質に汚染された水や泥などの土壌に、傷や粘膜が接触することにより感染する
- 汚染された水や飲食による経口感染もある

避難生活時に問題となる感染症の例

結核

麻疹

インフル
エンザ

COVID-
19

流行性
角結膜炎

疥癬

空気感染



空气中に漂う病原体を
吸い込むことで感染

飛沫感染



飛沫を吸い込んだり、
病原体が付着した手で
粘膜を触ることで感染

接触感染



手を介した接触により
感染したり、人と人との
接触(雑魚寝等)で感染

感染性胃腸炎
(ノロウイルス、
ロタウイルス等)

細菌性
腸管感染症
(腸管出血性大腸菌
感染症等)

経口感染



汚染された食品を
食べて感染したり、
病原体が付着した手で
口に触れることで感染

避難所内のトイレの衛生管理について

以下のようなことに気を付けて、感染症の拡大を防ぎましょう。

- ◆居住区域は、土足厳禁を徹底しましょう
トイレで汚染された履物を介して感染がひろがるおそれがあります。
- ◆手洗い場とトイレはなるべく近くに設置しましょう
トイレから手洗い場までの距離が離れていると、手洗いが徹底されないことがあります。
- ◆流水を使って手洗いをしましょう
流水で手洗いができない場合は、アルコールを含んだ手指消毒薬を使用しましょう。
やむを得ずバケツなどにくみ置きした水を使う場合は、直後バケツの中の水で手を洗わないように注意しましょう。

避難所内の感染拡大を防ぐために、下痢、嘔吐、発熱などで体調の悪い利用者がいないか常に注意しましょう。



アルコールによる手指の消毒方法

食事の前、トイレの後必ず入りに



全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

全工程を20~30秒くらいかけて行います

○ 災害時の感染症対策に関する情報(千葉県リンク)は、千葉県感染症情報センター及び当保健所のホームページにも掲載しています。

ボランティアの方も
感染対策を忘れずに!
「持ち込まない」「感染しない」

参考

厚生労働省「災害時における感染症対策」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/saigai.html
日本感染症学会「震災時に問題となる感染症-避難所・災害現場で注意すべき感染症とその対応-」
https://www.kansenshou.or.jp/uploads/files/topics/disaster_260810.pdf
千葉県「災害時における避難所等での感染症対策について」
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/saigaijitsaisaku.html>
千葉県「避難所における食中毒の発生防止について」
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eishi/denshikan/hinanjyo-syokutyuudoku.html>

夏休み期間中は、帰省や旅行、イベントへの参加などにより人との接触機会が増えるため、さまざまな感染症に感染するリスクが高まります。また、夏休み明けは、学校や幼稚園、職場などで集団生活が再開されることから、**感染症が広がりやすくなる時期**です。加えて、暑さや生活リズムの乱れによる疲労から免疫力が低下するため、体調管理と基本的な感染症対策を心がけることが大切です。

保育園に通う子どもたちは夏休みがない場合が多いものの、今年もRSウイルス感染症、手足口病、ヘルパンギーナなど、小児で流行しやすい感染症は依然として報告がみられているため注意が必要です。**感染症の特徴や予防方法について改めて確認し、施設や家庭で感染予防に努めましょう。**

RSウイルス 感染症

症状：発熱、鼻汁、咳

特徴：生後6ヵ月以内の乳児、基礎疾患のある小児や高齢者がかかると重症化する可能性がある

登園基準の目安

呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと

咽頭結膜熱

症状：発熱、結膜炎、咽頭炎

特徴：生後6ヵ月以内の乳児、基礎疾患のある小児や高齢者がかかると重症化する可能性がある

登園基準の目安

発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消失した後2日を経過するまで出席停止

ヘルパン ギーナ

症状：発熱や咽頭・口腔内粘膜に水疱、潰瘍を形成する

特徴：乳児では脱水症、小児では稀だが髄膜炎や心筋炎に注意が必要
症状が強い急性期に最もウイルスが排泄され感染力が強いが、症状回復後も便から数週～数か月間ウイルスが排出される

登園基準の目安

本人の全身状態が安定している場合は登校(園)可能

手足口病

症状：口腔粘膜と四肢末端に水疱性発疹を生じる

特徴：症状回復後も便からは数週～数か月間ウイルスが排出される

登園基準の目安

本人の全身状態が安定しており、発熱がなく、口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく普段の食事がとれる場合は登校(園)できる

感染対策 基本の

キ



1

流水と石鹸を用いた
手洗いの徹底



2

流行している感染症に応じた
こまめな消毒



3

タオル等は
共有しない



4

適切な
排せつ物の処理
(PPEの着用)



5

咳エチケット



感染症を予防するためには、こまめな手洗いや手指消毒、適切な消毒(疾患に応じた消毒薬の選択)や換気などの基本的な対策を徹底することが重要です。

発熱や咳に加えて、呼吸が苦しい、食事や水分が摂取できないといった症状が見られたら、すぐに医療機関に相談しましょう。

夏休み明けは生活リズムを整え、感染症に負けない体調づくりに努めましょう。

参考

厚生労働省「RSウイルス」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rsv.html

厚生労働省「咽頭結膜熱」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/pcf.html

厚生労働省「ヘルパンギーナ」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/herpangina.html

厚生労働省「手足口病」<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>

千葉県では、2026年第34週に届出はなく、2026年の累計は32例となっています。

全国では、2026年第33週に届出はなく、2026年の累計は549例となりました。

麻しんは空気感染するため、手洗いやマスクでは十分な予防ができません。そのため、**ワクチン**による予防が最も有効です。日本では、1歳児(第1期)と小学校入学前1年間(第2期)を対象として、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)の定期接種が導入されています。麻しんの発生やまん延を防ぐため、一人ひとりが予防接種を受けることが重要です。

定期接種の対象者とスケジュール

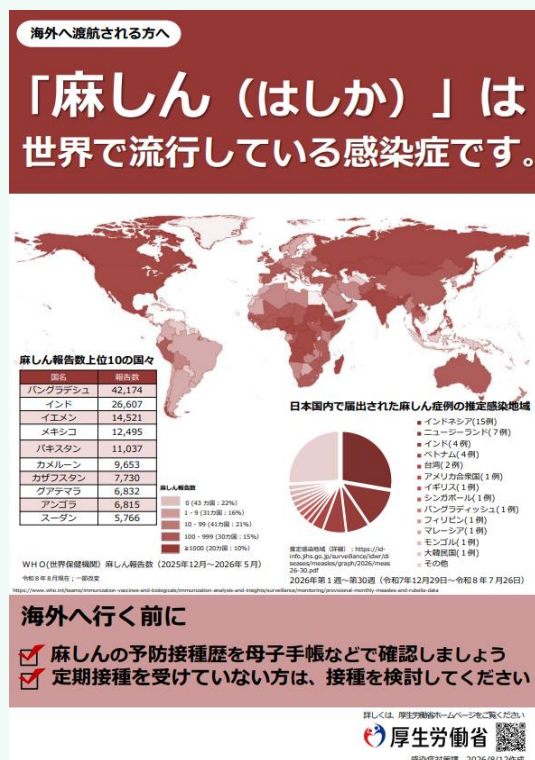
第1期：1歳の1年間（1歳の誕生日の前日から2歳の誕生日の前日まで）

第2期：5歳以上7歳未満で、小学校入学前の1年間

【参考】千葉県感染症情報センター「千葉県の麻しん発生状況(2026年第34週)」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202634measles.pdf>

【参考】JIHS「麻疹発生動向調査 2026年第33週」<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/2026/meas26-33.pdf>



インフルエンザ感染症

—— 定点医療機関における感染者数の報告は増加傾向です

市川保健所管内インフルエンザ発生状況(人)

	A型	B型	A+B型	AorB型※	臨床診断
報告数	25	0	0	0	0

※型非鑑別キット

(医療機関からの型報告なく不明な 5 例を除く)

第34週の千葉県全体の定点当たり報告数は、前週の0.84(人)から増加して、1.80(人)となりました(図1)。市川保健所管内の報告数は、前週から増加し、1.40(人)となっています(図2)。

第34週の千葉県内定点医療機関の協力による迅速診断結果について、285例のうち、A型277例(97.2%)、B型8例(2.8%)であり、A型が多い状況です。

感染対策

- ①手洗い・手指衛生
- ②マスクの着用・咳エチケット
- ③室内の換気
- ④室内の湿度の保持
- ⑤人込みを避ける
- ⑥ワクチン接種

【参考】千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202634influenza.pdf>

【参考】厚生労働省「令和7年度急性性呼吸器感染症(ARI)総合対策に関するQ&A」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/k_ekaku-kansenshou/influenza/QA2025.html

2026年第33週から第34週における定点各医療機関からのインフルエンザ報告数をまとめた表です

図1

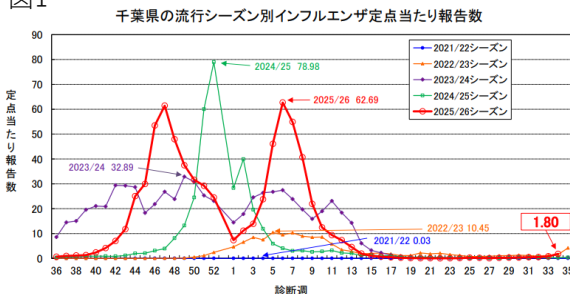
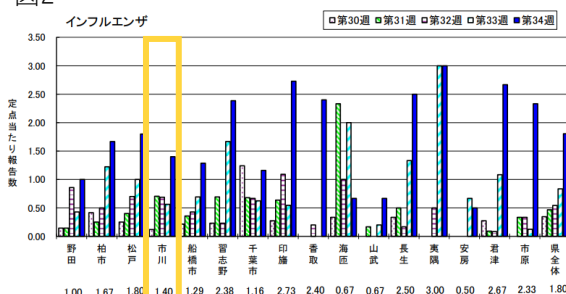


図2



—— 定点医療機関における感染者数の報告は増加傾向です

第34週の千葉県全体の定点当たり報告数は、前週の0.82(人)から増加して、1.20(人)となりました。地域別では、香取(2.60)、長生(2.50)、柏市(2.33)保健所管内が多い状況です。

市川保健所管内の報告数は、前週から増加し、1.33(人)となっています(図2)

感染対策

インフルエンザを予防する方法と同様です

【参考】千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202634covid19.pdf>

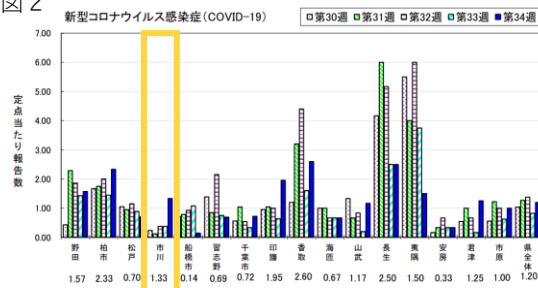
【参考】千葉県:新型コロナウイルス感染症について

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/kansenshou/ncov/covid19-chiba-index.html>

図1



図2



お知らせ

- ・【医療機関の皆様へ】1~4類感染症及び5類感染症の一部(麻しん・風しん・侵襲性髄膜炎菌感染症)の発生届を御提出いただく際は、発生届(オンライン・FAX等)の御提出と併せて保健所までお電話をお願いいたします。なお、閉庁時であっても速やかに保健所へお電話いただきますようお願い申し上げます。
- ・2月1日より疾病対策課の電話番号が変更となりました⇒【047-377-1104】
- ・閉庁日にお電話いただいた場合、「千葉県保健所夜間休日受付センター」の連絡先のアナウンスが流れますので、当該センターに御連絡をお願いいたします。



◀◀ 感染症法に基づく 医師の届出ハンドブック

https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/pamphlet_A4.pdf

- ・登録アドレスの廃止、変更等は下記アドレスまで御連絡をお願いします。
- ・いちうら感染症情報は、毎月第2・4木曜日を配信予定としていますが、事情により配信が遅れる場合があることを御了承ください。
- ・いちうら感染症情報の内容は主に公的機関の情報を基に作成し、できる限り最新で正確な情報発信に努めておりますが、各登録機関の責任において御利用ください。
- ・また、メールの安全性についても千葉県の情報セキュリティ対策により安全性の確保を図っておりますが、各登録機関におかれましてもセキュリティ等の注意をお願いいたします。

配信元

千葉県市川健康福祉センター
(市川保健所)
いちうら感染症情報
ichiurainf@pref.chiba.lg.jp